

くらしき まち歩き さと歩き マップ



倉敷市
玉島地区
長尾学区

作成：長尾地区愛育委員会
協力：長尾小学校区小地域ケア会議
長尾地区社会福祉協議会
発行：倉敷市（令和7年3月改訂）

長尾ヒストリー

昭和初期に、長尾の北東にある土生（はぶ）周辺で、貝塚が見つかりました。後の調査で縄文土器や人骨も発掘され、長尾は古代から豊かな土地であり、中南部のほとんどは海だったことがわかります。その後、高梁川からの土砂流入により、湿地帯が広がっていきました。17世紀になって備中松山（現高梁市）藩主は、藩地拡大と水運路確保のため干拓を始め、1670年代には玉島と陸続きとなり、高瀬通しも開通しました。備北の産物を、玉島に集約するために、長尾は物流の重要拠点となり、多くの文人墨客が訪れる町となりました。現在も新幹線や高速道路などが整備されたことで、多くの商業施設や学校が集まり県内有数の文教商業地域となっています。

大内谷神田跡

千年前、紫式部が活躍した少し後の時代、後三条天皇の即位時に詠まれた和歌によると、長尾が当時から風光明媚で豊かな土地であったことがわかります。



旧松山往来

元禄七年、備中松山藩の水谷家が廃絶した後、播州赤穂藩が管理を命ぜられ、家老の大石良雄（内蔵助）も、この往来を利用したと伝えられています。現在は、中国職業能力開発大学校の敷地に隠れ、高速道路の下を通り、穂井田に続いています。



善昌寺・千体地蔵

今から400年前に建立されたと言われている真言宗の寺院です。現在の表門は、明治10年ごろ、廃寺された前海寺から移転されました。境内奥にある地藏堂には、5寸の木像が千体祀られています。



鉾島大師堂

昔から長尾は東南海路の要津であったため、町内各地に仏堂が多く残されており、この御堂も上之町から明治初年に移設されました。堂の前にある廻國塔の文字は、頼山陽の書と言われています。



新倉敷駅南公園

万治元年、備中松山藩によって爪崎新田干拓が完工して今の爪崎地区一帯ができました。その後昭和42年の3市合併に伴い倉敷市玉島爪崎となり、昭和59年より着手した新倉敷駅南区画整理事業の完成により、事業区域内の玉島爪崎が平成17年に廃止され、新倉敷駅前となりました。新倉敷駅南公園には、地震などによる断水時に備えて飲料水をくみ出せる貯水槽を設置しています。



土手のハゼノキ

樹齢370年と推定される3本のハゼノキが、今も旧高瀬通し沿いの土手に残っています。古くは、船頭や舟客の休憩の場でもありましたが、当時名産品であった木製の原料となる実を採取するために植えられたとも言われています。



クスノキの巨樹

樹齢300年と伝わる坂南小野家のクスノキは、土手のハゼノキと共に、倉敷市の巨樹として指定されています。長尾のシンボルツリーとして、今後も大切に見守ってきたいものです。



高瀬通し

1640年ごろ、干拓地への灌漑用水路を拡大し、水江村の一の口水門から長尾、爪崎を通り、玉島湊まで全長約10kmの高瀬通しが開通しました。これにより、城下町松山（現高梁市）と外港である玉島が直結され、高瀬舟の運行は藩の発展に寄与することになりました。



長尾神社（八幡神社）

長尾神社は、今から約600年前に宇佐八幡宮を勧請したものと伝えられています。大正3年、各地域の神社が合祀され、今は長尾地区の守護神となっています。秋の例大祭には、各地域の千歳衆が集まり、多くの見物客で盛り上がります。



旧分秀小学跡

明治初年、長尾村に寺子屋に代わり啓蒙所（長雄小学）が設立され、その後、文秀小学と改称され、爪崎教場と鉾島教場が置かれました。明治18年、両校を合わせて、尋常尢中学校和となり、戦後、現在の長尾小学校に改名されました。老朽化した門と塙の一部から当時を偲ぶしかありません。



建神社（荒神様）

大正3年秋、村内の各神社を八幡宮に合祀の際、当社は玉島町羽黒神社の境外末社であるため、合祀されずこの地に残りました。当社の境内には、稲荷大明神、地神社、木野山神社の三社が祀られています。



新旧高瀬通しコース

歴史探訪コース

高瀬通し跡を巡りながら、新しい長尾を感じる 新旧高瀬通しコース / 約3.5km

★玉島公民館長尾分館

分館の片隅に設置されてある長尾橋。高瀬通しの名残を残してある。

★長尾橋

旧鴨方往来と呼ばれていた道を旧高瀬通しを左に見ながら西へ進む。

★旧玉島往来分岐点

旧鴨方往来と分かれて旧玉島往来を南へ進む。国道60号線との交差点に落雷で焼き焦がれた、古いハゼノキが残されている。

★ハゼノキ①

狭い西側の道を南へ進むと、当時の土手の石垣跡が見受けられる。そのまま進むとJRの土手根踏切に出る。

★土手根踏切

高瀬通しを右に見ながら、一直線に南へ進む。

★ハゼノキ②

さらに南へ進むと2号線が大きく見える。

★ハゼノキ③

県道41号線を北に進み、信号を右に渡った先に、新川ビオトープがある。

★新川ビオトープ

新川に沿って緑道を進む。

★新倉敷駅南公園

災害時貯水槽が完備されているこの公園から新倉敷駅前にかけて、多くの現代彫刻が屋外設置されている。舟をモチーフにした遊具などを見ながら新川緑道を進む。

★新川緑道

春は桜、夏は柳の木立の中を新川に沿って進む。

★新倉敷駅南第2公園

新川緑道の終点に着く。JR線を目標に進み歩道橋（跨線橋）を渡ると旧長尾橋跡を通りゴール到着。

★玉島公民館長尾分館



☆干拓による新田開発

当時の備中松山城主池田長幸は、藩の石高を増やすため、飛領地であった高梁川河口の広い洲に目を付け、点在していた島々を結んで堤防を作り、陸地から沖へと新田開発を進めました。寛永元年(1624)には、長尾内新田が開発され、続いて松山藩を引き継いだ水谷（みずのや）勝隆が、寛永十九年(1642)に長尾外新田を新墾しました。

☆新川ビオトープ

ビオトープとは、生物生息空間の意味です。昭和40年頃までいたホタルを見たという住民の願いに対し、地域の各環境保護団体が協力して、ホタルの生息空間の改善に務めるとともに、ホタルの幼虫と餌のカワナを放流し、令和の時代に復活させることが出来ました。毎年、5月下旬から6月上旬に、この周辺でホタルを見ることが出来ます。

長尾の歴史を再確認できる（健脚むき） 歴史探訪コース / 約4.5km

★玉島公民館長尾分館

ながおキッズ児童クラブを左手に西へ進むと長尾小学校が右手に見える。

★長尾小学校

押しボタン式信号を渡り、右折してくらしき作陽大学を越えて坂道を下ると大内谷神田跡の石碑に着く。

★大内谷神田跡石碑

コンビニ前の交差点を右折すると緩い坂になっており、旧松山往来に入る。

★旧松山往来

右手は木が茂っているが、左手は見晴らしが良くなってくる。

★善昌寺

善昌寺から南に進み、三つ目の三叉路を左折し四つ目の三叉路を左折した先に上之町公会堂がある。

★上之町公会堂

公会堂を左に見て進むと、クスノキが見える。

★クスノキの巨樹

右折すると自動車道（旧鴨方往来）に出る。右手が旧庄屋坡南小野家である。

★旧庄屋坡南小野家

高瀬通し沿いを南西方向に進む。小高い丘の上に長尾神社がある。

★長尾神社

長尾神社を左手に歩き踏切を渡り新川を左手にして歩くと鉾島公会堂に着く。

★鉾島大師堂

頼山陽筆による石碑の裏道を南に進み、小川に出たら左折。南へ進むと左手の鬱蒼とした木間に旧文秀小学跡がある。

★旧文秀小学跡

住宅街を南に進む。

★建神社

神社を過ぎて三叉路に出たら、右方向へ進むと旧美袋線に出る。右折してJR線の方向に進み、歩道橋（跨線橋）を渡ると旧長尾橋跡を通りゴール。

★玉島公民館長尾分館



☆旧庄屋坡南小野家

長尾の小野家は坡南（はな）と呼ばれ、代々亀山藩で大御用達でしたが、天保飢饉の際に、私米を施すなどの功により藩直士となり勘定方となりました。江戸末期に分家して、本家坡南の亭号を移山亭、分家是有芳亭、招月亭と呼ばれ、頼山陽をはじめ多くの文人墨客との交流の場になったようです。

☆善昌寺からの眺望

善昌寺からは、船穂～長尾にかけて町を眺めることができます。遠くには瀬戸内海の島々や四国の山々を望むことができます。

